

IV-418

豊田市における地域環境に対する住民意識の分析

名城大学 学生員 山中康嗣

名城大学 正 員 松本幸正 栗本 譲

1.はじめに

地域の都市基盤整備を行うにあたり、住民の意見を整備計画に反映させることは重要であり、また地域の特性を生かした地域ごとの街づくりが望まれている。そこで本研究においては、豊田市で行われている市民意識調査のうち豊田市民の市全体における住みよさの評価とそれぞれの地区ごとの周囲の地域環境に対する評価との関係を分析するとともに、地域環境に対する住民の意識構造について考察する。

2.市全体に対する評価と地区ごとに対する評価との関係分析

市全体に対する評価と地区ごとに対する評価との関係を考察するために、市民意識調査の項目である「豊田市は住みよいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。」に対する評価結果と

「お住まいの周囲の生活環境を全体としてみた場合、満足していますか、それとも不満ですか。」に対する評価結果の関係について分析する。

表1に第10回市民意識調査（平成2年実施）における上記2つの問いに対する評価結果のクロス分析のうち χ^2 値及びCramerのV係数を、表2に第11回市民意識調査（平成5年実施）におけるそれぞれの値を示した。 χ^2 検定の結果からどの地区においても独立性は棄却されることが分かり、CramerのV係数から第10回調査、第11回調査とも上郷地区、高岡地区において市全体における住みよさの評価と周囲の地域環境の評価との関連が他の地区と比べると高いことが分かる。これは両地区の土地利用構成が市全体における土地利用構成に近いことによると思われる。

3.周囲の地域環境の評価に及ぼす影響分析

周囲の地域環境の評価に最も強く影響を及ぼしている要因を明らかにするために、外的基準を上述の「お住まいの周囲の生活環境を全体としてみた場合、満足していますか、それとも不満ですか。」に対する評価「満足している・どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「不満である・どちらかといえば不満である。」の3段階とし、表3に示す生活環境の評価23項目、個人属性に関する項目5項目を説明変数とし、数量化理論第2類を用いて分析を行った。

図1に示した市全体における数量化理論第2類の分析結果から見ると、第10回市民意識調査、第11回市

表1 クロス分析結果（第10回）

	χ^2 値	CramerのV係数
猿投	84.0118**	0.3902
高橋	33.7255**	0.2907
松平	17.2355*	0.2618
挙母	223.5410**	0.2585
上郷	66.7194**	0.3057
高岡	120.4495**	0.3528

*5%有意 **1%有意

表2 クロス分析結果（第11回）

	χ^2 値	CramerのV係数
猿投	103.6374**	0.3902
高橋	23.3086**	0.2907
松平	22.9457**	0.2618
挙母	240.0480**	0.2585
上郷	69.1512**	0.3057
高岡	154.0946**	0.3528

*5%有意 **1%有意

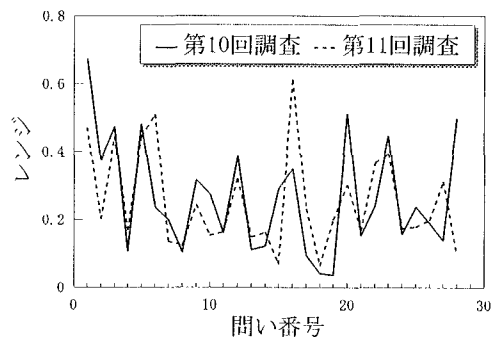


図1 市全体における分析結果

表4 各地域ごとの分析結果（第10回）

順位	猿投	高橋	松平	挙母	上郷	高岡
1	26(1.4564)	27(1.5208)	6(3.4544)	5(0.7031)	10(1.0002)	1(0.7929)
2	3(0.7017)	12(1.3353)	5(2.9344)	1(0.6076)	1(0.7676)	27(0.7557)
3	5(0.6576)	5(1.2529)	26(2.3674)	23(0.5933)	18(0.6528)	2(0.6363)
4	4(0.6177)	1(1.0698)	3(2.1139)	20(0.5361)	14(0.5848)	20(0.6357)
5	6(0.6093)	2(0.8710)	22(1.3713)	9(0.3890)	3(0.5623)	5(0.5246)
相関比	0.3589	0.5394	0.6377	0.3555	0.5167	0.4477
データ数	472	240	123	1103	224	455

表5 各地域ごとの分析結果（第11回）

順位	猿投	高橋	松平	挙母	上郷	高岡
1	6(1.2537)	28(1.3688)	6(4.7074)	16(0.6714)	28(0.9551)	13(0.7397)
2	8(0.8482)	27(1.3375)	16(2.2302)	1(0.6248)	8(0.8233)	9(0.7274)
3	1(0.6305)	1(1.0960)	5(2.0670)	12(0.5471)	9(0.6901)	16(0.6636)
4	16(0.4697)	20(0.9318)	26(1.7134)	5(0.5193)	6(0.6627)	11(0.6327)
5	3(0.4418)	17(0.8444)	1(1.5054)	20(0.5124)	10(0.6249)	6(0.5188)
相関比	0.3790	0.5466	0.5666	0.3597	0.5896	0.4206
データ数	469	238	110	108	236	429

表3 説明変数

問い番号に対する項目
1 日当たり・家の風通し
2 雨水・汚水の水はけ
3 空気のごちめ（におい、ほこり）
4 川・排水路の水のごちめ
5 工場の振動・騒音からの静かさ
6 みどり・自然の豊かさ
7 道路（歩行のための）の安全さ
8 水災・震災からの安全さ
9 水害からの安全さ
10 川・鉱山跡などの危険防止
11 し尿処理
12 道路の改良・舗装の状態
13 公園・広場への近さ
14 集会などの施設
15 子供の遊び場の状態
16 自治区・町内会の活動
17 病院・診療所への近さ
18 郵便局・銀行への近さ
19 近くの夜道の明るさ
20 日用品買物の便利さ
21 電車・バスの便利さ
22 通園・通学の便利さ
23 レクリエーション・スポーツの場
24 年齢
25 出生地
26 居住年数
27 同居家族数
28 職業

民意調査とも「1. 日当たり・家の風通し」が地域環境の評価に影響が大きいこと、逆に「18. 郵便局・銀行への近さ」が地域環境の評価に影響が小さいことが分かる。

しかしながら、第10回調査では職業の違いが、地域環境の評価に強く影響を及ぼしていたが、第11回調査では相対的に影響が小さくなっているといった場合も見られた。

表4、表5にはそれぞれ第10回、第11回調査における各地区別の数量化理論第2類の分析結果のうち、レンジの値の大きな上位5項目を示してある。表中の番号は表3に対応する番号を示してあり、かっこ内の数字はその項目に対するレンジの値を示してある。これらを見ると全般には第10回調査で「1. 日当たり・家の風通し」、第11回調査で「6. みどり・自然の豊かさ」が地域環境の評価に対して影響が大きいことが分かり、また第11回調査においては、「28. 職業」といった項目が上位にみられる地域もあった。地域別にみると猿投地区では第10回調査で「26. 居住年数」、第11回調査で「6. みどり・自然の豊かさ」、高橋地区ではそれぞれ「27. 同居家族数」、「28. 職業」、松平地区では両調査で「6. みどり・自然の豊かさ」、挙母地区では「5. 工場の振動・騒音からの静かさ」、「16. 自治区・町内会の活動」、上郷地区では「10. 川・鉱山跡などの危険防止」、「28. 職業」、高岡地区では「1. 日当たり・家の風通し」、「13. 公園・広場への近さ」が地域環境の評価に対して影響が大きいことがわかり、各地区ごとの生活環境や都市基盤の整備状況の差異が分析結果に現れていると考えられる。例えば上郷地区において、第10回調査では他の地域ではあまり地域環境の評価の影響が大きい「10. 川・鉱山跡などの危険防止」が最も大きく影響を及ぼしていることが分かるが、これはこの地区が矢作川と家下川の間に位置しているといった地域特性の現れであると思われる。松平地区においては、6地区のうちで唯一両調査で最も大きく影響を及ぼしていた項目が「6. みどり・自然の豊かさ」であるが、これはこの地区が愛知高原国定公園に指定された地域があるなど、豊かな自然に恵まれた地域であることによると思われる。

4. おわりに

本研究では、地域環境の評価を数量化理論第2類を用いて分析した。この結果から地域環境の評価に与える影響要因について解明できた。今後は、より適切な説明変数の導入、経年的な変化への発展、そして変化の要因などを都市基盤の整備状況などから解明していく必要があると思われる。

<参考文献>

豊田市：第10回市民意識調査報告書、第11回市民意識調査報告書